囃子概要

ねぶた祭りは音楽なしでは成立せず、まさに山車のように、音楽も全て人力です。お囃子または囃子方（伝統的な音楽のアンサンブル）は、音楽の提供を担っています。それぞれの山車の委員会は、50人から100人の演奏者と3種類の楽器から成るアンサンブルを抱えています。パレードの間、観客は真っ先に遠くからの太鼓のドンドンというビートを耳にすることになり、これに高いピッチの竹笛や、手振り鉦と呼ばれる小さな手のひらサイズのシンバルがチリンチリンと鳴る音が続きます。

パレードを通じて主に2つのメロディが奏でられ、全てのお囃子が同じ曲を演奏します。これは1952年以降のことで、この当時、祭りの主催者は、実行委員会に個別に作曲した曲を競わせるのではなく、正調囃子として知られる共通のレパートリーを採用する決定をしたのでした。正調囃子は、元々は12のメロディで構成されていました。そのうち10は、太鼓用で、「集合」、「前へ」、「後ろへ」など、山車の部門の内部の意思疎通手段として機能していました。後の2つは現在でも使われており、「前へ」（進行）は、現在ではねぶた祭りの「テーマソング」と考えられています。ねぶたの山車が前進する時に演奏されるこの曲には、神様を迎え、送り出す2つの意味が込められています。